

7月2日(月)

信仰の目を養う

聖書朗読 マタイ 9：27－34

イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」 ヨハネ 20：29

エジプトやインドに旅行へ行くと、路上で物乞いをする盲目の人の数の多さに驚き、悲しみを覚えます。ある人の話によると、カイロで出会った100人のうち、20人が盲目、10人が片目を失っていて、他の20人は何らかの問題を目に抱えていたそうです。きっとイエス様の時代には目に問題を抱える人はもっと多かったことでしょう。

しかし、本日の聖書朗読箇所に出てくる盲目の人達は、イエス様の御力を信仰の目を通して見る事が出来たのでしょう。彼らはイエス様が癒して下さると信じ、確かにイエス様はそうなさったのです。素晴らしい出来事です。

私たちにとって、なぜ信仰は大事なのでしょうか。とても喉が渇いている時に、昔ながらの井戸を見つけたとしましょう。バケツとロープがあれば、井戸から水を汲むことができます。水を汲むためのバケツとロープはあくまでも道具にすぎません。しかし、その道具があることにより、本当に手に入れたい水を得ることが出来るのです。つまり、水に譬えられる救いの恵みに与るためには、バケツに譬えられる信仰も大切なのです。では、信仰をより確かなものにするためには、何が必要なのでしょう。そのためには、聖書を丁寧に読み、神様の約束に耳を傾け、祈りつつ、神の御心にかなう生活を送る努力をすることが肝要だと言えましょう。

私は、いかなる状況でも学びます
それは神の御心を行いたいから
そしてたとえ試練の中にあっても
信仰によって前進出来るように

讃美歌 294

祈り 癒しを求めてイエス様の許にやって来た人々が持っていたような信仰を私
たちも持つことが出来ますように。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ヘレン・M・ヤング 1956年

今日の力

2018年7月2日～7月8日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月3日(火)

ヨハネへの朗報

聖書朗読 マタイ 11:2-6

こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」 マタイ 3:16-17

普通、幼い子供たちの大人に対する期待値は高いものです。例えば、子供にはどう頑張っても出来ないような、たとえ奇跡のようなことさえも大人なら出来てしまうと思っている子もいます。そして、子供たちが期待したように大人が何かをすることが出来なかった場合、子供たちはひどくがっかりして、大人たちに対する信頼さえ一時的に失ってしまうこともあります。

バプテスマのヨハネも、主イエスに対して大きな期待を寄せていました。『私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です』(マタイ 3:11)と、バプテスマのヨハネは言っていました。しかし、後に捕らえられ獄中にいたヨハネは、イエス様が本当に救い主なのか、一時的ではありますが懐疑的になったことがあります。そしてヨハネは獄中から使いを送って、イエス様が本当に救い主なのか確かめようとした(マタイ 11:2-3)。

しかし、イエス様のなさる数々の奇跡——目の見えない人、ツァラアトに苦しむ人、耳の不自由な人たちが癒された出来事——を聞き知ったヨハネは、それらの奇跡がイエス様こそ救い主であるという「しるし」だと確信しました。主イエスによる数々の奇跡についてヨハネが伝え聞くことが出来れば、イエス様こそ救い主であるという確信をヨハネが再び持つことが出来ることをイエス様はご存知でした。

私たちは時に、両親や友達に対して失望する時があります。確かに人間は、私たちが失望させることがあります。しかし主は、私たちを決して失望させません。神様にとっては全てが可能であり、神様こそ私たちが頼り頼むことが出来るお方である、ということ改めて思い起こしましょう。

聖歌 514

祈り 神様、あなたが全能なお方で、いつも誠実なお方であることを感謝します。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャリーン・モーア
カリフォルニア州パシフィックパリセーズ

7月4日(水)

言葉では言い尽くせないほどの恵み

聖書朗読 マタイ 13:44-52

また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。 マタイ 13:47

言葉では言い尽くすことが出来なことを説明するには、どうしたらよいのでしょうか。例えば、神の御国についてあなたならどう説明しますか。御国を求める人々に対し、イエス様は三つの譬えを用いて説明されました。すなわち、1) 畑に隠された宝を発見した人の譬え、2) 良い真珠を探している商人の譬え、3) 漁獲した中から商品にはならない魚を取り除いている漁師の譬えの三つです。

これらの譬えで描かれている人々は皆、何らかの価値ある物を発見した際、その価値を直ちにそして十分に認識しています。そして、その発見した価値ある物を何とか自分のものとするための努力を惜しんでいません。神の御国も、その価値を私たちが理解したならば、私たちは天の御国を何にも増して大切にしたいと思うと思います。

今、あなたが一番求めていることは何ですか? 自分の持ち物を売ってでも手に入れたと思うものは何ですか? 優れた教育を受けることですか? 地位のある職に就くことですか? 或いは、申し分のない家や、素敵な車でしょうか? それとも素晴らしい休暇のひと時でしょうか? 神様の御国についてはいかがですか? あなたは神様の御国の価値・素晴らしさを、どの程度ご存知ですか?

神様の御国のような永遠に存在するものの価値を、私たちが言葉で表現することは出来ません。同様に、イエス様が十字架上で負って下さった罪の代価の大きさを、私たちが完全に理解することは難しいと思います。そのような大きな価値ある恵みを頂いていることに、私たちはどれだけ感謝していますか。私たちが頂いている救いの恵み、御国のという約束の恵みを、今一度思い起こし、感謝の心を新たに致しましょう。

聖歌 638

祈り 神様、あなたから頂いている恵みについて、深く感謝することが出来るようお導き下さい。御国と言う約束が、いかに価値あるものか気付くことが出来るよう、お助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ノーマ・ブリヴィット
カリフォルニア州サウザンドオークス

7月5日（木）

母の願い

聖書朗読 マタイ 20：20－28

あなたは口のきけない者のために、また、すべての不幸な人の訴えのために、口を開け。口を開いて、正しくさばき、悩んでいる人や貧しい者の権利を守れ。

箴言 31：8－9

母親は通常、その子供達に大きな影響を与えます。箴言 31 章を見ますと、レムエル王の母は、息子である王に人道的配慮に関する助言を与えています。息子が王として立派に務めを果たしてほしいと考えていたからです。またゼベダイの子たち（ヤコブやヨハネ）の母も、息子たちが出世して、成功した人生を送ってほしいと願いました。ですから、ゼベダイの子たちの母はイエス様のもとへ来て、息子たちを将来御国の右大臣と左大臣に起用して欲しいとお願いしたのです。他の弟子たちは、この母親の願いに腹を立てました。

私たちは往々にして、この身勝手なお願いをしたゼベダイ子たちの母の人間的な弱さにだけ目を留めがちです。しかし、聖書をよく見ますと、母親たちの素晴らしい面も窺い知ることが出来ます。例えば、ペテロが漁に使っていた網を捨てて主イエスに従った際、ペテロの親は、ペテロを無理に引き留めようとはしていないようです。ペテロの義理の母については、熱病で苦しんでいた時に主イエスによって癒されたと書かれています。そのような経験がありましたから、ペテロの義理の母は、安心してペテロをイエス様に委ねることが出来たのかもしれません。このように考えると、ゼベダイの子たちの母も、（確かに身勝手なお願いはしましたが）息子たちを信頼して、そして何よりもイエス様と来たるべき御国の素晴らしさを確信して、息子たちがイエス様に従っていくことに価値を見出していたのではないかと思います。どの母親も人間としての弱さを持ち合わせていますが、子を愛する母親たちの存在を、神様に感謝したいと思います。

讃美歌 452

祈り 父なる神様。私たちの幸せを願ってくれる母親の存在を、改めて感謝します。あなたにお仕えしていくことを通して、私たちが真の祝福を頂くことが出来ますよう、助け導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

バリー・ポイヤー

ミズーリ州カークスビル

7月6日（金）

わたしといっしょに目をさましていなさい

聖書朗読 マタイ 26：36－39

そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」 マタイ 26：38

「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい」とイエス様は弟子に告げられましたが、それは弟子たちがその言いつけを守ることが可能だとイエス様がお考えになっていたからではないでしょうか。確かに欠点だらけの弟子たちでしたが、イエス様は、そんな彼らをも大切な存在として受け入れ、彼らに信頼を置こうとして下さったのではないのでしょうか。つまり弟子たちは、自分自身で考えていた以上に主イエスから信頼を置かれていたように見えます。私は、イエス様の弟子たちに対する信頼を、イエス様と自分自身との関係にあてはめて考えてみました。サタンは私にこう囁いていると思います。「お前なんか、神様から愛され信頼されるに値しない存在だ」と。しかし、聖書は次のように言っています。『見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ』（イザヤ 49:16）。つまり、神様は私をいつも特別な存在として心に留めていて下さるのです。弟子たちも、そして私も、神様にとって大切な価値ある存在なのです。

私は、イエス様とサタンが、主の弟子たちについて次のような会話をする様子を想像します。「霊的に未熟で臆病な弟子たちを信頼して本当に大丈夫なのか？ 彼らに福音の宣教という大切な役割を本当に任せてしまっても良いのか？」。このようなサタンの問いかけに対し、イエス様は「私は彼らを信じている」とお答えになると思います。また弟子たちが失敗した時のために予備の計画があるかを尋ねるサタンに対し、「私の計画は一つあれば十分だ。（私が彼らを支えるので）彼らは大丈夫だ」とお答えになるイエス様を想像します。

主は、私たちに信頼を置いて下さるほどに私たちを大切な存在として扱って下さっています。たとえ私たちがいつも霊的な目を覚ましていることが出来ない弱さを持っていたとしても、イエス様は私たちを大切に扱って下さいます。私たちの過ちを悔い改める時、主は私たちを赦し、私たちを神の器として用いて下さいます。神様は私たちにいつも呼びかけて下さっています。『眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる』（エペソ 5:14）。

讃美歌 525

祈り 神様、あなたのような大いなるお方は他にいません。弱さを持つ者を強め用いて下さるあなたに拠り頼み、歩んで行くことが出来ますようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ボブ・メイズ

テキサス州ラボック

7月7日(土)

バプテスマと聖霊の導き

聖書朗読 マルコ 1:9-13

そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」 マルコ 1:10-11

本日の聖書箇所で描かれている主イエスのバプテスマの場面は、私が知る限り、父なる神・子なるキリスト・聖霊なる神が同時に現れている唯一の場面です。ですから、この出来事には特別な意味があったと思います。イエス様は、ご自身の宣教活動始めるにあたり、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けました。このバプテスマには次の三つの意味があったと考えられます。まず、預言の成就という意味があったと思います。また主イエスのバプテスマは、神を信じるすべての人に模範を示すという意味もあったと思います。そして、主イエスのバプテスマは何よりも、主イエスご自身の献身の決意を現すという意味があったのではないかと思います。つまり、主イエスのバプテスマは、(人間の救いのために)父なる神に自らを捧げ、委ねた主イエスを現しているようにも考えられるのです。そしてこのようなイエス様を、父なる神は喜ばれ、聖霊によって力付けられたのです。

主イエスのバプテスマで現わされているイエス様と父なる神、そして聖霊の関係は、私たちと三位一体の神様との関係にあてはめて考えることも出来ます。なぜなら、私たちもバプテスマにおいて、(自分を主張するのではなく)自分を神様にお委ねして、神様のご計画の中で神の器となることを決意するからです。バプテスマにおいて主イエスは聖霊の助けを頂き、宣教活動を開始しました。同様に私たちも、バプテスマされることにより聖霊の助けを頂き、神に用いられる器としての新しい歩みを始めるのです。イエス様が荒野で受けた誘惑は大きな誘惑でしたが、聖霊の導きによりイエス様は守られ強められていたのだと思います。同様に、私たちも聖霊によって守られ導かれながら、日々歩んで行くことが出来るのです。父なる神様、子なるキリスト、そして聖霊によるバプテスマと、バプテスマにおいて決意される献身の態度(神にすべてをお委ねする態度)を、私たちクリスチャンはいつも大切にしたいものです。

讃美歌 338

祈り 神様、あなたにお従いする決意を、日々新たに持つことが出来ますように。聖霊が私たちを助けて下さること、そしてイエス様の復活により私たちに確かな希望が与えられていることを、感謝いたします。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州ラボック

7月8日(日)

忙し過ぎて時間が無い？

聖書朗読 マルコ 1:14-22

ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことをしているのですから。 I コリント 15:58

最近、「忙し過ぎて時間が無い」と言う人が本当に多いと思います。どこに行っても「忙し過ぎて時間が無い」と言っている人を見かけるように思います。忙し過ぎて、リラックスする時間が無い、家族と過ごす時間が無い、聖書のクラスに参加出来ない、病気の人のお見舞いに行けない・・・、とよく耳にします。また、忙し過ぎて福音を宣べ伝える時間など全く無い、と言っている人もいます。

私たちは神様のための時間も無い程に本当に忙しいのでしょうか？これ程忙しくしていることは、神様に喜ばれることなのでしょう。もし神様のために使う時間も無いほど忙しいのなら、それは神様に喜ばれる時間の使い方ではではありません。マルタが地上的なことであまりに忙しくしていた際、イエス様は彼女に言われました。『マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです』(ルカ 10:41-42)。神様とその御言葉に耳を傾けること、それこそが「どうしても必要なこと」ではないのでしょうか。弟子たちがイエス様と初めて出会い、イエス様についてくるよう言われた際、彼らは素直にイエス様の招きに従いました。イエス様の御声を一番大切にしたいからです。私たちもそうした姿勢を大切にしたいものです。

「忙しい」という理由で家族と疎遠になったり、友人たちへの配慮が十分に出来なくなったり、神様をおごなりにするようなことがあるとしたら、それは好ましい生き方だとは言えないでしょう。

ではどうしたらよいのでしょうか。神様に喜ばれる仕方では時間を使うには、全てのことをやろうとするのではなく、「どうしても必要なこと」ではないことに関しては「ノー」と言い断ることも、時には必要です。神様のための時間を取れるよう、霊的な優先順位を考えるようにしましょう。祈りと共に実行するなら、神様による豊かな祝福が得られるでしょう。

讃美歌 310

祈り 神様、あなたに喜ばれる仕方では時間を活用できるよう、お導き下さい。霊的に養われるために必要な時間を、私たちが持つことが出来ますように。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ヘレン・ヤング 1957年